沖縄の海を訪れる訪日外国人の Pull 要因に関する研究
—旅行目的に着目して—

2114017　　栗栖　弘樹　（海洋スポーツ・健康科学研究室）

Ⅰ．研究目的

近年，日本を訪れる外国人（以下，訪日外国人）観光客数は増加しており，2024 年の訪日外国人観光客数は 3687 万人となり，過去最多を記録した。同様に，沖縄を訪れる外国人（以下，訪沖外国人）観光客数も新型コロナウイルス拡大による大幅な減少から一転，回復傾向にある。また，外国人が日本で経験してみたいスポーツツーリズムと訪沖観光客の活動内容において，マリンスポーツが上位に入っていることから，外国人にとって沖縄でのマリンスポーツの需要は比較的高いと推測できる。そこで本研究では，旅行目的がマリンスポーツか否かに着目して，実際に沖縄の海を訪れる訪日外国人の Pull 要因を明らかにすることを目的とする。

Ⅱ．研究方法

本研究では，大相撲観戦する訪日外国人の Pull 要因を，旅行目的に着目して研究した高田・原田（2021）の研究内容を参考とし，沖縄を訪れている外国人を対象とした調査を実施した。Google フォームの QR コードをスキャンしてその場で回答してもらい，100 件の回答を得た。得られた回答は単純集計の後，質問項目で設けた 11 個の Pull 要因について探索的因子分析を行った。加えて，沖縄の海を訪れる訪日外国人の旅行目的によって Pull 要因が異なるのかどうかを，t 検定を用いて比較した。また，同意を得たアンケート協力者を対象に聞き取り調査を実施した。

Ⅲ．結果と考察

単純集計の結果，「とてもそう思う」，「そう思う」，「どちらかといえばそう思う」の回答を合計した割合が最も高かった Pull 要因に関する質問項目は，“沖縄の海は美しい景観を持っている”（94%）であった。Pull 要因に関する 11 個の質問項目について因子分析を行った結果，2 因子で構成されていることを明らかにし，2 因子を「自然環境・観光魅力」，「マリンスポーツの受け入れ体制」と命名した。次に，マリンスポーツ実施を目的とするか否かによる Pull 要因の違いを検討するために，t 検定を行った結果，「自然環境・観光魅力」，「マリンスポーツ受け入れ体制」の 2 因子においては有意差が認められなかった。しかし，マリンスポーツの受け入れ体制因子の「沖縄のマリンスポーツの料金設定は適切である」という項目においてのみ有意差が認められた。また，聞き取り調査の結果から，訪日外国人観光客は沖縄の自然や文化的魅力に大きな価値を見出している一方で，観光客向けの案内板やマリンスポーツの料金体系などにおいて更なる改善を期待していると考えられた。

主な参考文献

国土交通省「観光白書　令和 6 年版」

高田紘佑，原田宗彦（2021）「大相撲観戦する訪日外国人の pull 要因に関する研究：旅行目的に着目して」『スポーツマネジメント研究』13(1)，3-14.